

いつだって
山の向こうで
待ってるよ。

その夏、少年サンウは、
おばあちゃんと二人で暮らした。
慣れない山の生活に
わがままし放題のサンウだが、
決して叱らないおばあちゃんに
少しずつ心を開いていく……。

おばあちゃんの 家

2002年 大鐘賞最優秀作品賞

最優秀脚本賞、最優秀企画賞受賞

岩波ホール創立35周年記念作品

監督・脚本:イ・ジョンヒョン/製作:ファン・ウヒョン、ファン・ジェウ

Tube Pictures製作/出演:キム・ウルファン、ユ・スンホ/配給:東京テアトル・ツイン

2002年/韓国/カラー/ビスタサイズ/ドルビーSR ©2002 TUBE ENTERTAINMENT all rights reserved.

日影ソムソム 韓国映画公社

CJ ENTERTAINMENT Present In Association with TUBE ENTERTAINMENT

A TUBE PICTURES Production "THE WAY HOME"

EUL-BOON KIM SEUNG-HO YOO KYUNG-HOON MIN EUN-KYUNG YIM HYO-HEE DONG

Music by DAE-HONG KIM YANG-HEE KIM

Edited by SANG-BEOM KIM JAE-BEOM KIM

Production Designer JUM-HEE SHIN

Director of Photography HONG-SHIK YOON Executive Producer SEUNG-BUM KIM

Produced by WOO-HYUN HWANG JAE-WOO HWANG Written and Directed by JEONG-HYANG LEE

CJ ENTERTAINMENT TUBE ENTERTAINMENT TUBE PICTURES DDB&E



小さな村の暮らしを描いた映画が、 韓国で400万人の心に響いた

陽のあたる縁側、画面いっぱいに広がる緑の木々と山道、流れる時間に身を任せて暮らす村の人々、腰をかかめてゆっくりと歩くおばあちゃんの姿……。2002年春、韓国の人々は、ある一本の映画に夢中になった。それは、ほとんど素人に近い7歳の少年と、映画出演はおろか、映画そのものを見たことさえないというおばあちゃんが主演、おばあちゃんが実際に住んでいた山の中の村が舞台で、その他の出演者も全員、村の住民という映画だった。

そんな「田舎の村の暮らし」に、韓国の人々が胸を打たれて、400万人動員という異例の大ヒットとなった。さらに韓国のアカデミー賞にあたる大鐘賞最優秀作品賞、最優秀脚本賞、最優秀企画賞を受賞、その評判は海外にも広がり、数々の映画祭で上映され、注目を集めた。アメリカでも2002年11月、大手映画会社のパラマウントが公開、韓国映画のオープニング成績のトップを記録し、大きな話題を呼んでいる。



思い出すのは、おばあちゃんの 無条件の愛に包まれていた頃

母親と二人でソウルに住むサンウは、ある日、田舎のおばあちゃんの家へ連れて行かれる。母親が新しい仕事を見つけるまでの間、会ったこともないおばあちゃんと暮らすことになったのだ。話すことができず、読み書きもできないおばあちゃんをバカにし、不自由な山の生活に不満を爆発させるサンウはわがままの放題。しかし、決して叱らず、サンウの願いを一心に叶えようとするおばあちゃんにサンウは少しずつ心を開いていく。やがて彼の心に信頼と愛情が芽生えた時、母親が迎えにやってくる……。

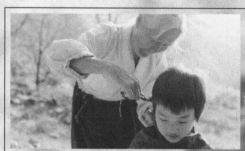


この映画を見た人々は、自分のおばあちゃんを思い出し、その無条件の愛情に包まれていた頃を懐かしむ。それは、原題の「家へ……」が示すように、国境や人種を超えて世界中の人々に共通する“大切な思い出”なのだ。

「おばあちゃんに感謝する映画を 撮りたかった」と語る女性監督の やさしさに満ちた作品

監督は、「亡くなったおばあちゃんの深い愛情に感謝する映画をずっと撮りたかった」と語るイ・ジョンヒャン。女性監督が少ない韓国において、彼女は脚本も手がけた監督デビュー作『美術館の隣の動物園』(98)で大鐘賞新人監督賞を始め数々の賞を受賞し、その実力が認められている。2作目となる本作でも自ら脚本を担当、主人公二人の日常を愛情とユーモアをこめて描いている。その結果、サンウが村で過ごす一見何気ない一瞬一瞬が、かけがえのない体験となり、私たちの胸を熱くさせるのだ。

おばあちゃん役のカム・ウルブンと監督の出会いはいまに“運命”だった。「そこへ行けば私の理想のおばあちゃんが待っている」という監督の直感のもと訪れた韓国中部の忠清北道・永同(ヨンドン)の村で、監督はカム・ウルブンに“一目惚れ”した。サンウ以外の出演者は全員素人だが、監督は彼らの生きてきた人生そのものを引き出してフィルムに焼き付けることによって、この爽やかな物語に真実味と厚みを付け加えることに成功した。



おばあちゃんの家

2002年 大鐘賞最優秀作品賞
最優秀脚本賞、最優秀企画賞受賞

監督・脚本:イ・ジョンヒャン/製作:ファン・ウヒョン、ファン・ジェウ
Tube Pictures製作/出演:カム・ウルブン、ユ・スンホ/配給:東京テアトル・ツイン
2002年/韓国/カラー/ビスタサイズ/ドルビーSR ©2002 TUBE ENTERTAINMENT all rights reserved.

日本サムスン 韓国観光公社 CJ ENTERTAINMENT TUBE ENTERTAINMENT TUBE PICTURES



5月17日(土)より感動のロードショー!
特別前売ご鑑賞券¥1500 絶賛発売中!
(当日一般¥1800の処)

・60歳以上の方(シニア)は連日1,000円でご覧いただけます。 宣伝協力:テレビ大阪

梅田コマ劇場斜め前 梅田ロフトB1F
テアトル 梅田
06(6359)1080

10:30 12:35 2:40 4:45 6:50

<http://www.cinemabox.com/>

心齋橋ソニータワーB1F
心齋橋シネマ・ドウ
06(6251)3789

5/17(土)~5/23(金) 1:20 3:15 5:10 7:05

5/24(土)~ 11:45 1:50 3:55 6:00

<http://www.sonycinematic.co.jp/>